

評価指標ごとの今後の課題について

第4次計画の目標	総合評価指標	ベースライン値（R2 年度）	中間実績値（R5 年度）	目標値(R8 年度)	評価
健全な食生活を実践する市民を増やす	健全な食生活を実践する市民の割合	70.6%	65.4%	80%以上	▼

基本方針・施策展開		重点プログラム	評価指標	ベースライン値 (R2 年度)		中間実績値 (R5 年度)	目標値 (R8 年度)	評価	今後の課題
1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進	(1)栄養バランスや減塩に配慮した食生活の推進	①	「和食」を実践している人の割合	67.1%		66.5%	80%以上	▼	若い世代に対する栄養バランスのとれた食生活の推進 「食育に関する調査」結果では、日本型食生活の「和食」を実践していない者が多いこと、主食・主菜・副菜を揃えた食事の摂取頻度が低いことが分かった。この要因としては、若い世代や一人暮らし世帯は、「和食」のように、多様な食材を準備することが難しく、簡易な食事を摂る傾向にあることが考えられる。このため、若い世代や一人暮らし世帯に対して、簡単に栄養バランスがとれる食事づくりの紹介等の取組を強化する必要がある。
			主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食っている人の割合	未把握 (参考値(国):36.4%)		47.3%	50%以上	-	
		②	元気じゃけんひろしま 21協賛店・団体(食生活協賛)の 認証数	415 店舗		417 店舗	700 店舗	△	協賛店制度の強化 店舗や団体にとって、協賛店となるメリットを増やし、認証数の増加を図る必要がある。
	(2)健康的な食べ方 (規則正しく、よく噛んで味わう等)の実践に向けた 取組の推進	③	朝食を毎日食えることが習慣になっている子どもの割合	小学生	95.5% (R3 年度)	94.9%	100%	▼	若い世代に対する朝食摂取率向上のための取組推進 朝食摂取については、指標となっている全ての世代で悪化している。この要因としては、若い世代は、夜型の生活になる傾向があり、朝の時間にゆとりがとれないことが考えられる。「食育に関する調査」結果においても朝食を食べるために必要なこととして、自宅以外(飲食店やコンビニ等)で手軽に朝食を食べることができる環境、自分で短時間・簡単に朝食を用意できる市販食品の組み合わせ方法・組み合わせ例の紹介などが挙げられている。このため、短時間に簡単に準備できる朝食の紹介や自宅以外でも朝食が摂れる環境の整備を進めていく必要がある。
				中学生	94.0% (R3 年度)	92.4%		▼	
		④	朝食を毎日食えることが習慣になっている若い世代の割合	20 歳代男性	72.3%	59.4%	85%以上	▼	
				20 歳代女性	77.3%	66.3%		▼	
				30 歳代男性	76,1%	63.7%		▼	
				30 歳代女性	85.7%	80.1%		▼	
		⑤	よく噛んで食べるなど 食べ方に配慮する人の割合	73.5%		67.7%	80%以上	▼	よく噛んで食べることの大切さの啓発 「食育に関する調査」結果では、特に男性(62.6%)が、女性(72.5%)に比べて低くなっている。栄養バランスのとれた日本型食生活の実践を促す中で、よく噛んで食べることの必要性についても周知していく必要がある。
2 持続可能な食を支える食育の推進	(1)食を通じたコミュニケーションの機会を増やす取組の推進	①	「輪食」を実践している人の割合	69.5%		67.7%	80%以上	▼	高齢世代に対する共食の推進 こどもがいる世帯は 81.7%と目標値を達成しているが、70 歳以上の高齢者は男女とも割合が低くなっている。高齢になると、一人暮らしが多い傾向にあるため、他の世代に比べ、共食を実践している人の割合が低いと考えられる。高齢者にとって、共食をすることは、心の健康や多様な食品の摂取など栄養バランスにも影響することから、会食の場の提供など地域コミュニティの推進を図っていく必要がある。
	(2)郷土料理や広島食文化への理解と伝承の促進	① ③	郷土料理や行事食を月1回以上 食っている人の割合	未把握 (参考値(国):44.6%)		34.5%	50%以上	-	若い世代に対する郷土料理や広島食文化への理解促進 「食育に関する調査」結果では、男性20～30歳代、女性 20 歳代が 2 割台と低くなっている。広島市の郷土料理について、特に20～30歳代の若い世代に対して、周知していく必要がある。
	(3)農林水産業の重要性を理解し実感する活動の促進	⑥	農林水産業の 体験交流人口	68 万人		77 万人	106 万人以上	△	全世代に向けた農林水産業の体験活動の機会の提供 目標人数を達成するため、引き続き農林水産業の体験活動の機会の提供に努め、開催情報等を年代別のニーズを踏まえて提供していく必要がある。
	(4)ひろしまの地産地消を普及する取組の推進	⑦	“ひろしまそだち”を購入したことがある世帯の割合	69.9% (H30 年度)		59.9%	70%以上	▼	地産地消を普及する取組の推進 ・目標達成のため引き続き“ひろしまそだち”の普及を図り、地産地消を普及啓発していく。 ・引き続き学校給食における地場産物の使用割合を増加させる取組を行う。併せて、保護者に対して食育だより等で地産地消等を普及啓発していく。
		①	学校給食における地場産物の使用割合(品目別使用割合の平均)	31.3%		41.9%	40%以上	◎	
	(5)食品や食材の廃棄を減らす取組の推進	①	「環食」を実践している人の割合	79.7%		81.9%	83%以上	△	全世代に向けたフードロス削減の取組の推進 食品ロス目標達成のため引き続きエコクッキングの啓発やフードロス削減の取組を推進し、高齢者や一人暮らし世帯を含めた全世代が実践できるよう普及啓発していく必要がある。
3 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育		④ ⑧	健全な食生活を実践する若い世代の割合	20 歳代男性	57.2%	54.4%	70%以上	▼	若い世代に対するデジタル化に対応した取組の推進 20～30歳代の男女ともに悪化している。「食育に関する調査」結果においても、「食に関して充実してほしい情報提供の方法」として、若い世代の上位に SNS が挙げられていることから、SNS 等を活用して若い世代が興味を持つような食に関する情報発信を強化する必要がある。
				20 歳代女性	64.4%	60.6%		▼	
				30 歳代男性	63.0%	54.4%		▼	
				30 歳代女性	74.0%	63.4%		▼	
4 全市一体となった広島らしい食育推進運動の展開		⑧ ⑧	「わ食の日」を認知している人の割合	31.0%		28.7%	50%以上	▼	全世代に向けた「わ食の日」の普及啓発を推進 「わ食の日」の言葉も内容も知らなかった者が年々増加していることから、特に成人男性を中心に、全世代に対して「わ食」について普及啓発していく必要がある。

※評価 ◎：目標達成 △：目標は達成していないが、ベースライン値から改善 ▼：ベースライン値から悪化 -：評価不能